



令和元年度 さいたま市立土呂中学校 学校だより

見沼のほとり

第 6 号

令和元年10月1日

学校教育目標

主体的に生きる人間の育成 <意欲・健康・豊かな心>

有志竟成

校長 冨田 敦

「有志竟成（ゆうしきょうせい）」今年の土呂中学校駅伝競走部の胸に込められる文字です。

有志竟成、「志を曲げることなく堅持していれば、必ず成し遂げられる」という意味です。ノーベル賞受賞者 本庶 佑（ほんじょ たすく）京都大学特別教授が座右の銘としている言葉でもあります。

市駅伝競走大会に向けての練習が始まります。参加選手は、持久走の記録がよい、昨年度に参加した、自分自身を磨くため、仲間や先生方からの期待に応えるためなど、様々な動機をもち、自ら練習に参加する意志のある生徒が集い、学校の代表として活動に取り組みます。ですから、所属する学年や部活動はバラバラです。しかし、10月29日の市駅伝競走大会までの期間は「土呂中学校駅伝競走部」として活動します。苦しい練習にも取り組みますが、代表選手としての誇りと仲間との絆を強くもって乗り越えてほしいと願っています。教職員も一丸となって応援していきます。さらに今年度は、男女とも3年生から1年生までのメンバーがそろっており、頼もしく感じています。

9月28日から市新人体育大会が始まっています。これに先立ち、壮行会が行われました。各部長が大会に向けての意気込みを元気に述べ、そのたくましさ感動しました。その後、選手宣誓がありました。

「我々選手一同は、先輩方からたくさんの思いが込められた 重く、輝くバトンを託され、先輩たちのような最高のチームを目指し、日々練習に取り組んできました。新チームは、試練と困難の連続で、時には仲間とぶつかることもありました。しかし、私たちは、お互いを信じ、励ましあい、この夏の厳しい練習を乗り越えてきました。ともに汗を流した仲間との絆を胸に、支えてくれた全ての方への感謝の気持ちを忘れず、土呂中学校の代表として、正々堂々と、最後の1分1秒まで力の限り、全力で戦うことを、ここに誓います。」（関口 桃子 バレーボール部部長、隅本 沙良 女子バスケットボール部部長）

中心となる生徒が代わり、新チームになっても「支えてくれた全ての方への感謝の気持ちを忘れず」戦うという土呂中学校のよき伝統は継承されていることに感動します。これからも土呂中生の活躍を応援くださいますようお願いいたします。

夏休みが明けた始業式の日、大きな驚きと称賛が学校に届きました。2年生の飯田明音さんが日本代表選手として派遣された Asian Open Short Track Speed Skating Trophy 2019（開催地：中国雲南省昆明市）において1000mで2位、500mで6位入賞し、銀メダルを持ち帰ってきたのです。



飯田明音選手(中央)

飯田さんは次のように話してくれました。「日本代表選手に選ばれるとは思っていなかったのでびっくりしました。代表に選ばれたからには、代表選手らしく、負けても腐らず、勝ってもおごらずというスポーツマンシップをもって戦おう、またいい成績を日本に持ち帰りたいとも思いました。大会が始まると、メダルを日本に持ち帰りたいという気持ちが強くなりました。1000mでは、今まで勝てなかった選手にも勝つことができ、銀メダルもいただきました。これも、お世話になったスケート連盟や主催者、両親のおかげだと感謝しています。これからは、この経験を生かし、また日本代表選手になりたいと思います。日本でトップになるための練習を積み重ねていきます。」

飯田さんはこのあと、スケート競技の活動にも取り組みますが、冒頭に記しました「土呂中学校駅伝競走部」の練習にも参加します。二足の草鞋となりますが、高い志をもつ姿勢を応援したいと思います。

学校では、19日の合唱コンクールに向けて練習が始まりました。昼休み、帰りの会后、歌声が校舎内に響いています。響く歌声は未完成ですが、本番では聴く人の心を打つ合唱を披露できることと思います。ぜひご来校くださるようお願い申し上げます。